

【歴史的かなづかい】教 119

歴史的かなづかいのパターン

①ぢ ↓ □

②づ ↓ □

③む ↓ □

④み ↓ □

⑤ゑ ↓ □

⑥を ↓ □

⑦くわ ↓ □

便覧 P42 を参考にしましょう。
ハ行のかなは、言葉の頭にあるもの以外、
ワ行に変わることも覚えておこう！
(例 あはれ → あわれ)

⑧「ア段の音+う (ふ) ↓ 「オ段+う」
あふ ↓ □ □

⑨「イ段の音+う (ふ) ↓ 「イ段+ゆ」
きう ↓ □ □ □

⑩「エ段の音+う (ふ) ↓ 「イ段+よ」
てふ ↓ □ □ □ □ □ □

組 番 名前

【歴史のかなづかい 2】

一次のー線部の歴史のかなづかいを現代かなづかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(1) 今は昔、竹取の翁と①いふものありけり。

①

野山にまじりて竹を取りつつ、②よろづのこと③使ひけり。

②

③

名をば、さぬきのみやつこと④なむいひける。

④

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと⑤うつくしうてゐたり。

⑤

(2) 春はあけぼの。⑥やうやう白くなりゆく⑦山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

⑥

⑦

夏は夜。月のころはさらなり、闇も⑧なほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

⑧

便覧 P64 65
枕草子

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと⑨近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、⑩飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

⑨

⑩

便覧 P54 「竹取物語」